

みどりの学習プロジェクト

みどりの学習プロジェクトでは、今年度から改めて、新しい「みどりのヒント集」を作成するためのネタ・記事を募集しています。現在、みどりに関連する種々のテーマで原稿が集まっていますが、まだまだ足りていません。

ぜひ、みなさんの力を貸してください。

この「みどりのヒント集」は積上げていき、冊子として、当交流会の教科書的なものになるようにめざしていますので、ご期待ください。

花苗プロジェクト

地域で活動されている方達にも参考にして頂ける効率のよい育苗をめざして、今年も種蒔きからポット上げに取り組みました。種蒔用土については少々冒険を試みて失敗もありましたが、良い経験になりました。今年の「みどりのフォーラム」の体験コーナーで必要な花苗の計画を始めています。今後は地元で活動しているメンバーの花壇のデザインも考慮に入れて、より実践的なお手伝いもできるように考えています。会合は月に一度夜に開いており、楽しく和やかな場です。参加歓迎致します。

豊中みどりの交流会

-こんな活動やっています-

地域緑 Book プロジェクト

本プロジェクトでは、みどりの活動をしている団体にお邪魔して活動を体験し、地域緑 Book を作成しています。7月25日には、浜グリーンパーククラブさんの活動地にお邪魔しました。共同利用施設で花苗を作り、街路樹の根元を花で美しくしたいという有志の集まりでした。花と緑の相談所の指導を受けながらの花苗作りは勉強の真最中！始めて10年、活動している時に近所の方から声をかけられるのが大変うれしいとのことでした。うちの団体の活動取材してほしい！など、お待ちしております☆

ゴーヤ・プロジェクト

地球温暖化防止活動の一環として、「みどりのカーテンづくり運動」を進め、市内13小学校と保育所、行政関連施設などの協力でゴーヤを育てていただきました。学校では授業の一環として取り組み、多い学校では100名の児童とともに苗の植え付けを楽しんでいただきました。生育状況は各学校で水やりの状況や日当たり等の条件で変化しています。大きな葉をたくさんつけ、大きな実がいっぱいになった所もありました。市議会棟のゴーヤも大きく育ち8月8日桜塚保育所の園児たちが収穫をしました。

豊中みどりの交流会 2008 開催

そだてよう”みどり”の和

下記要領で、今年もみどりのフォーラムを開催します。みなさんぜひご参加ください！

■日時：2008年10月26日（日）午後1:30～4:00

■開場：午前10:30（パネル展コーナー等）

■会場：すてっぷ（右図参照）

■内容：

▼講演「どうして植物をそだてるのですか？」
～目的意識の共有と無理をしないためのしくみづくり～

大阪府環境農林水産総合研究所
主任研究員 豊原憲子さん

▼事例発表：松下電器産業(株)/松下溶接システム(株)
豊中市立小学校
豊中みどりの交流会

▼パネル展示
活動団体のパネル展示

▼みどりの相談コーナー
みどりに関するよろず相談受けます

▼実演体験コーナー
花のポット苗のプレゼントあり！

■会場：男女共同参画推進センターすてっぷ
(エトレ豊中5F)



編集後記

7月29日に行なわれた「ゴーヤ見学ツアー」に参加しました。
どの小学校さんもよく世話をしてくれているようですが、ゴーヤの生育状況については、いくらかの差があると私は感じました。土の量が、多いと根がしっかりと伸び、蔓の伸びもよく、水分も十分吸収できると思われ、直植されたところや大きなプランターの小学校が、よく育っていたように思います。
ただ、この小学校が夏休み間の水遣りが、かなり重要になると思われるので、まだまだ逆転も夢ではないと思います。
(運営委員 林)



豊中みどりだよりは、みんなで、どんどん、りょっか（緑化）しよう！という意味を込めて、豊中市でみどり活動を進められている方に向けて発信するニュースです。



Toyonaka Green Action

豊中みどりだより第5号

特集 そだてよう “みどり” の和



東豊中町の一目とすてっぷ

かたつむりの へんしん

夏草や 兵どもが 夢の跡 (松尾芭蕉)

梅雨が明けたので、庭のアジサイよりも高く伸びた草を抜いた。抜いた直後の土は湿り気を帯び、ダンゴムシやヤスデがいきなり陽の光りに右往左往している。

照りつける午後の日差しに見る間に土が白く乾いていく。夏草は、強い日差しから地面の乾燥を防いでくれたのだらう。クマゼミは、乾燥した気候に強いのでヒートアイランド化した都会で勢力を増しているという。草を抜かないほうがアブラゼミのためには、よかつたのでは？

芭蕉が平泉を歩いた頃は、もつと涼しかったらう。

生まれ変わる「豊中みどりの交流会」

今年度から豊中みどりの交流会は生まれ変わりました。

昨年度までは豊中市から委託を受けた、株式会社地域計画建築研究所（アルパック）の主導で活動してきましたが、今年度からは私たち市民（会員）が中心になって運営することになりました。市の支援があるとはいえ、会員にとって時間的、精神的にかなりの負担を感じています。

しかし、ボランティア活動は本采、能動的なものであって、やっと本当の活動ができるのではないのでしょうか。また、会員のほとんどは、アジェンダ21、豊島北ビオトープクラブ、島熊山の雑木林を守る会、どんぐり山を守り育てる会、豊中緑化リーダー会等でボランティア活動に携わった経験豊かな人達ばかりなので、お互いのノウハウを当会の活動に活かれば大きな力になります。



平成20年5月27日 屋上緑化見学ツアー

さて、当会の活動も4年目を迎え、転換期に差しかかっています。今年度は、みどりの学習、地域緑Book、ゴーヤ、花苗の4つのプロジェクトチームがありますが、このプロジェクトをまたいだ相互乗り入れも必要でしょう。新しいプロジェクト創設も必要です。

地域緑Bookの情報を利用したり、会員が所属するボランティア団体への体験参加も活動の幅を広げます。ゴーヤをネタに子どもたちや、学校との接点を持つ。ゴーヤは一挙両得の役割を果たしてくれるかもしれません。また、みどりの学習プロジェクトでは、「みどりのヒント集」を作るための原稿を募集しています。執筆依頼が舞い込むかもしれません。

ボランティア活動は「楽しく」なければ成り立ちません。たくさんの人に参加いただいて、有意義な議論をしながら“活動のわ（輪・和・環）”を育てていきたいと考えています。

（豊中みどりの交流会 運営委員 T. Y）



平成20年5月22日付 産経新聞 朝刊 当会のゴーヤプロジェクト活動が紹介されています

豊中みどりの交流会の沿革

平成17年度：「豊中みどりの基本計画」を推進するため、「豊中みどりのワークショップ」として発足。

（株）地域計画建築研究所（アルパック）の支援を受ける。

平成18年度：第1回「みどりのフォーラム」を開催。

「豊中みどりの交流会」に名称変更。

平成19年度：第2回「みどりのフォーラム」を開催。

平成20年度：市の支援を受けながら、市民（会員）が運営を担う。

第3回「みどりのフォーラム」の開催決定。

どんぐり山を守り育てる会

～交流会メンバーがインタビューしました～

☆“ジージー”周りの木々から一斉に飛び立つ群れが。蝉です。団地の中にこれだけの虫がいるなんて。草むらには数え切れないほどのどんぐりとメタセコイヤの実生苗。



☆「どんぐり山」は、“ひょうたん山”“どんぐり山”“きのこ山”の三つの総称です。シャレール東豊中の前身 東豊中第一団地建設時に保全された雑木林です。

☆活動の契機は、落ち葉や表面の土が流出して、枯れ木が目立つようになり、森全体が衰え始めたので、それを食い止め再生したい、育成していきたいと思ったことです。平成16年12月に「どんぐり山を守り育てる会」を設立しました。

☆土地の所有者は公団です。民地扱いです。「守り育てる会」が撤退してしまうと公団の管理は野放し状態となり、森は衰退してしまいます。

☆「どんぐりの実生苗の生存率は二百分の一です」と、代表の古川さん。

☆東豊台小学校の児童と共に定期的に森を調査したり、幼稚園児を招いての自然観察会を開くなどして森を楽しんでいます。



この活動を後世に引き継いでいきたいと思っています。活動の趣旨を広く知ってほしいです。

☆現在の主な活動は、草刈と竹を利用した“しがらみ風の土留作り”です。



保護のため、ふだんはフェンスで囲まれていて、中に入れません。活動中は入れます

☆活動資金は、助成金・賛助金・会費（年間1200円）です。どなたでも会員になれます。



赤いエフロンがトレードマーク

（会の概要）

- 登録人数：約70人
- 活動人数：毎回 平均して20人
- 活動日時：毎月第3日曜日午前10時～12時（8月は休み）
- 連絡先：06-6849-7083（古川）